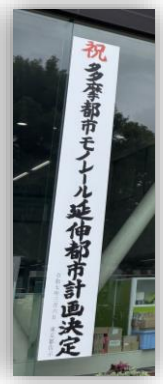
□おわりに



令和４年 10 月、多摩都市モノレールの延伸（上北台～箱根ケ崎）計画について、都市計画等の手続が開始され、駅の整備予定位置などが公表されました。多摩都市モノレールの延伸は、本市が大きく発展する絶好の機会であることから、延伸を見据えて積極的かつ計画的にまちづくりを進めていくことが必要です。 ただし、まちづくりは、担い手である市民、事業者等及び市の協働でなければ進めることができません。 このことから、沿線の将来像やまちづくりの方針等を明確にし、担い手間で共有するとともに、計画的にまちづくりを進めていくことを目的として、「（仮称）多摩都市モノレール沿線まちづくり方針」（以下「本方針」という。）を策定します。 ※武蔵村山市「（仮称）多摩都市モノレール沿線まちづくり方針」より引用

豊かな里山と市民で賑わう商業エリア、閑静な住宅街と国内の産業を支える工場エリア。武蔵村山市には、多様な特徴と価値観の融合があり、近年、転入超過が続いていることから、その魅力を広く認識されつつある。

一方で、「都内の区市で唯一鉄道駅が存在しない市」としても知られる本市。「多摩都市モノレール」の延伸は、多くの市民の悲願とも言うべき、本市の発展にはなくてはならない施策であった。

そして、令和７年３月、ついに、武蔵村山市にモノレールの駅ができるという都市計画が決定された。多摩都市モノレール延伸元年の幕開けである。市内には、５つの駅が整備される予定で、開業は、2030 年代半ばを見込んでいる。

本市では、このモノレールと共に更に発展していく未来を子どもたちに託すべく、「まちづくり学習」に取り組み始めた。今回の研究発表会は、その取り組みの成果の一端をお示しすることができたと自負している。

先に述べたように、本市には、多様な特徴と価値観の融合が見られる。発展のイメージも市民、事業者等、それぞれである。そのような中で、未来の担い手である子どもたちが、それぞれが思い描く武蔵村山市の発展のイメージを思いっきり膨らませ、重ね合わせ、価値観の差異を超えた共通のビジョンを生み出し、未来を協働的につくっていく過程を、これからも全力で支援していく学校でありたい。

副校長　水間　信護